

法遍寺 から大切な 皆様へ

2020年8月1日

日蓮正宗 年間方針

御命題達成の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

人材育成と折伏実践

年間実践テーマ

① 勤行・唱題で歓喜の実践

境涯開く御題目を
正しい姿勢で実践

② 異体同心の折伏で

広布へ前進

僧俗和合

講中一結

③ 御講と登山の推進で

人材育成

罪障消滅

一生成仏

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2020年7月12日の御報恩御講の様子

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日顕上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ

弘安3年正月3日、大聖人は上野の南条殿より、むしもち・清酒などの御供養をお受けになり、そのご返書に「花は開いてこのみとなり、月は出でて必ず満ち、灯は油をさせば光を増し、草木は雨ふれば榮う、人は善根をなせば必ず榮う」(御書1446頁)と仰せです。この時期は熱原法難の真っ只中であり、南条家にとって不退の心と常勤の志をもって信仰を貫くことは、実に容易ならざることでした。「人は善根をなせば必ず榮う」との御金言は、不動不変の大原理です。南条殿ご夫妻、母御前、ご一門はこの御指南を胸に、水の如き信心を貫きました。御義口伝には「善根は題目なり、不種は未だ持たざる者なり」(御書1767頁)と仰せです。勤行・唱題を生活の中心とし、ご報恩の御供養や塔婆供養、折伏の振舞いをもって大善根を積ませていただきます。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(日蓮大聖人御書講議 第30巻上の指導を紹介)

学会が勝手に御本尊を作ること大謗法であり、まして授与する資格など絶対にありません。御本尊の授与等は、「化儀抄」のとおり、必ず末寺の住職を通して御法主上人に願い出なければなりません。昭和62年11月発行の「生死一大事血脈抄」の講義では、「大聖人の御正意を拝するためには、御相伝による深義によらなければならないのである。このように、今日、日蓮大聖人を御本仏と仰ぎ、三大秘法を正しく信受することができるのも、ひとえに日蓮大聖人、日興上人以来、総本山歴代の御法主上人が伝持される法体の血脈による御指南、御威徳によるものであることを銘記しなければならない」(59頁)と指導しています。当時の正しい信仰観に反し、現在まったく矛盾する指導がなされているのは、まさに「頭破作七分」であることを知るべきです。

③ 宗教に関わらないほうが無難だと思ふ人へ

「信ずる」ということは「人の心と口を信じる」ということです。その信じる対象が人であれば、その人からの影響を受け、詐欺人を善人と思って信ずれば、後に不幸な目に合います。自分を不幸にする相手を幸福にするものと信じこむことが禍の因になります。では宗教に無関心でよいか、触らなければよいか。ここで自分自身の生活が真に幸福であるかどうか、ふりかえてみる必要があります。過去先祖のある信仰歴から眼前に現れる業の姿や、自分の身の上にある生まれ持った罪障の表われなど、生命体の上において因果の法則があることを正しく示す法を知り、信ずるならば、その人は幸福の道を開き築くことができるのです。それが正しい仏法であり正しい本尊です。真の立派な宗教には、関われば関わるほどよいのです。正しい仏法は日蓮正宗にあります。お待ちしております。